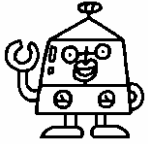


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

チューリップに、たねはできるの



チューリップは、花がさき終わると、めしべがふくらんできて実ができ、やがて割れてたねがたくさん出てくるよ。

チューリップのめしべは、太くて先が三角形をしている

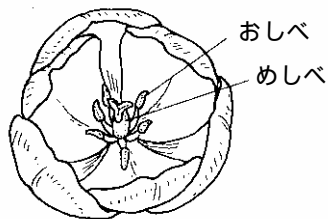
チューリップがさいたら、花を観察してみましょう。花びらは6まい、おしべが6本、太くて先が三角形のめしべがあり、がくはありません。

別なチューリップの花粉をめしべの先(柱頭)につけて(受粉)やりましょう。花びらが散った後、残っためしべは、だんだん太く大きくなっていき、夏ごろには長さが6cm、太さ2cmほどの緑色の実になります。やがて、実はかれ、実の先が3つに割れ、中からうすいたねがこぼれ落ちてきます。たねは、たてが5mm、よこが7mmぐらいの平たい形で、一つの実の中に200~300つぶぐらい入っています。

チューリップのたねは、種類によってできないものもあります。

たねから発芽したチューリップがさくまでには、5年以上かかる

チューリップのたねをまくと、細い葉が1まい出て10cmぐらいまで育ち、土の中にマッチの頭ぐらいの球根ができます。この球根を次の年に植えると、少し大きい葉ができ、球根も大きくなりますが花はさきません。できた球根の植え直しをくり返すと、5年めぐらいにやっと花がさきます。栄養分が球根に十分たまらないと、花をつけることができないのです。そのため、ふつうは、球根を植えます。



チューリップの花

